

# よもやま歴史教室

## 2024

さまざまな歴史を学習することにより、心に栄養を与え、豊かに生きるヒントをみつけていただきたい。  
皆様、ぜひご参加ください。

### 第1回

令和6年

5/18(土)

午後2時～

## 家康暗殺計画と 関ヶ原の戦い

講師 歴史研究家 ひらお えいじ 平尾 栄滋 先生



### 第2回

6/15(土)

午後2時～

## 郷土の歴史遺産 「中世城郭」を楽しむ

講師 元県立高等学校校長 いとう とくや 伊藤 徳也 先生



### 第3回

7/20(土)

午後2時～

## 紫式部と藤原道長

— 世界最高峰の文学作品と  
日本史上最高の権力者 —

講師 日本文学研究家 かわはら とくこ 河原 徳子 先生



【会場】 菰野町庁舎4階会議室

※東玄関よりお入りください。

【受講料】 各回200円(高校生以下無料)

■当日受付にて、住所、氏名、連絡先をご記入ください。

※講演内容等は、予告なく変更となる場合がございます。

※天候等諸事情により中止や変更となる場合があります。

中止等となる場合は、菰野町役場 HP、防災ラジオ等でお伝えいたします。

各回  
詳細は  
裏面へ

令和6年

5/18(土)

午後2時～

講師 歴史研究家 平尾 栄滋 先生

### 講師紹介

1967年一宮高校卒業、1972年名古屋大学工学部卒業、1972年三菱自動車工業入社三菱パジェロの開発設計に従事、2002年『自動車の高性能化』(山海堂)刊行、2014年名古屋城の外国人向けボランティアガイド(英語)、2018年『徳川家康という男』(郁朋社)刊行、2019年『日本という国～古事記の中に日本人の源流を探る～』(郁朋社)刊行、2022年『浅野長政・関ヶ原の戦いを仕組んだ男』(郁朋社)刊行、2024年現在、歴史研究家として「徳川家康」「関ヶ原の戦いと浅野長政」「世界中から愛される国・日本」のテーマで、市民団体や小学校にて講演活動中

## 家康暗殺計画と関ヶ原の戦い

### 講演要旨

1) 疑惑 慶長4年9月9日の「重陽の節句」の大坂城で、徳川家康が自身の暗殺計画を公表。首謀者は大老の前田利長、共謀者は五奉行筆頭浅野長政、豊臣秀頼に近侍する土方雄久と大野治長の4名。厳罰が下されたが、彼らは上杉征伐途上の「小山評定」にて全員が無罪放免。家康に与し「関ヶ原の戦い」に参戦、戦後、家康から格別の褒章を与えられた。2) 疑惑の解明…巨大なる陰謀 共謀者の浅野長政は豊臣秀吉の義弟として若き頃からつき従い、秀吉の天下取りに貢献し五奉行筆頭とされた。秀吉は残虐非道、暴虐無比な暴君に変貌。そんな秀吉を嫌悪する長政の前に、「厭離穢土欣求浄土」の旗印を掲げ平和を求めて戦う家康が。3) 陰謀の実態 秀吉の死から「関ヶ原の戦い」に勝利するまで、浅野長政と徳川家康の二人はどのような密謀をめぐらし政権を奪い取ったのか？その陰謀に土方雄久、前田利長、大野治長は如何に協力したのか？を明らかにする。

6/15(土)

午後2時～

講師 元県立高等学校校長 伊藤 徳也 先生

### 講師紹介

大学での専攻は日本近世史。研究テーマは近世日本天文学史。1991年から伊賀中世城館調査会の城郭調査に参加し、翌年から北勢地域での調査を開始。その後、志摩、南伊勢、東紀州、奥伊勢、中勢へと進み、伊賀を除く県内の調査を完了。調査結果は『再発見 北伊勢国の城』『同 志摩、南伊勢の城』『同 東紀州の城』『同 奥伊勢の城』として刊行。現在は『同 中伊勢の城』を作成しながら、県内不明城郭の調査および奈良県、和歌山県での調査を行っている。

## 郷土の歴史遺産「中世城郭」を楽しむ

### 講演要旨

城といえば姫路城をはじめとした天守や櫓、石垣を備えた近世の城をイメージする人が多いと思います。三重県内にも津城や松坂城、桑名城などがあります。でも、それらが出現する以前の中世の城は土造りが普通で、三重県内には実に1,000を超える城がありました。現在、その大半は人知れず埋もれていますが、これらの城は戦国動乱を生き抜いた国人、地侍たちの活動の舞台となったところです。

今回は県内の中世城郭を概観した上で、菰野町の城を中心にその姿をご紹介します。また、消滅してしまった城や詳しいことが分からない城の輪郭を復元する試みと、最後に整備のあり方についてお話しします。

7/20(土)

午後2時～

講師 日本文学研究家 河原 徳子 先生

### 講師紹介

徳島市生まれ。「朗読文学サークルパティオ」(5部門)主宰(パティオ読書会/『源氏物語』を原文で読む/文章教室「円虹」/よっかいち朗読文学の会/文章教室『言の葉』)。

現在、三重県生涯学習センター、その他さまざまな市町村で、文学講座講師を務める。三重県総合文化センターにて、2008年より「源氏物語を原文で読む」講座をスタート。

以後、『平家物語』『枕草子』『徒然草』その他の古典文学作品を講義する。菰野町公民館教室「文学講座」講師。

## 紫式部と藤原道長

—世界最高峰の文学作品と日本史上最高の権力者—

### 講演要旨

世界最高峰の文学作品『源氏物語』を、紫式部はいつ執筆をはじめたのか、その筆を起こそうと思った動機はいったい何だったのか、そして、その物語の中には何が描き込まれているのか——。

それは藤原道長の存在を語ることなしには考えられないことです。紫式部は、道長の援助や後押しがなければ、『源氏物語』も『紫式部日記』執筆することはできませんでした。そして道長も、紫式部作『源氏物語』の登場がなければ、一条天皇を娘の彰子の許に引き留めることはできなかったでしょうし、その栄華も手に入れることはできなかったのです。

今回の講演では、そんな二人の交流と、『源氏物語』の中に描き込まれた撰関期における政治論や物語論を読み解いてみたいと思っています。